
平成23年度 事業計画書



平成23年4月1日より平成24年3月31日まで

財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

平成23年度事業計画策定にあたって

1981年（昭和56年）の国際障害者年を契機に翌年8月設立された当基金も、設立より29年目を迎えます。

公益法人改革に伴う法人格の移行にむけて、当基金の設立以来の理念を大切にしながら、障害のあるなしに関わらず暮らすことのできる社会づくりを目的として、事業の枠組みを新たなものとし、事業展開を行ってまいります。

ふれあいの広場事業は、当基金が設立以来、取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害のあるなしに関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、開催してまいりました。

ふれあいのスポーツ広場は、自動車総連からの物心両面にわたるご支援をいただきながら、平成22年度には33会場で開催することができ、久方ぶりに岐阜、滋賀県においても実施され、積極的な開催となりました。

スポーツを通じて、障害のあるなしに関わらず楽しむことのできる様々なプログラムを開発・実施し拡充に努めてまいりました。今年度につきましては、山梨、富山の各県で初めての開催を予定し、35都道府県での開催を予定しております。

ふれあいの音楽広場は、平成22年度において独立行政法人福祉医療機構の助成をいただき、障害のある方が音楽を通じて、広く社会とつながり人との出会いの場をつくることを目指して、音楽ワークショップを全国8会場において開催いたしました。明星大学のご協力をいただき、学生主体による研究会を組織しプログラム開発および運営を行うことができたことは、指導者養成の点からも有意義でした。今年度はこのプログラムを継続してまいります。

また、昨年度はじめて実施した、音楽を通じて、発達障害の子どもと家族のためのプログラムについて、より拡充し実施してまいります。

これらの「ふれあいの広場」事業推進のため、新たなプログラム創造を行っていくために、スポーツや音楽を通じたユニバーサルなプログラムづくりを目指すと共に、その普及を目指して指導者育成講習会を実施いたします。

また新たな取組として、ユニバーサルなプログラムづくりのために、先行事例や指導者間の意見交換のために、有識者によるプログラム開発のための研究会を組織し、プログラムづくりの基礎づくりを行ってまいります。

これらの活動をより充実させていくために、資金的な課題が依然として残されております。会員の拡大をはじめ、さまざまな手法での資金調達を行うために、役職員の力をあわせて取り組んで参ります。多くの皆様のご理解とご支援のもと今年度事業が展開できますよう、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成23年4月

財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施

軽スポーツを通じ、障害のあるなしに関わらず楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施されている事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。以来、今までの間に開催地域も全国33会場までに拡大してまいりました。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとするべく、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造してまいりました。

現在、同志社大学スポーツ健康科学部の藤田紀昭教授を中心に、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを実施する他、(社)日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟にも、ユニバーサルなプログラムをご協力いただいております。

多くの関係者、ボランティアの皆様を支えられ、今年度においては下記の都道府県において開催を計画しております。

実施時期 平成23年4月～平成24年2月

開催地域 北海道、青森、岩手、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、東京、神奈川、山梨、富山、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、島根、岡山、広島、山口、香川、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、沖縄

開催数 全国35会場（予定）

共催 全日本自動車産業労働組合総連合会

後援 内閣府、開催都市、開催都市教育委員会

協力団体 社団法人日本エアロビック連盟

日本障害者フライングディスク連盟

大学障害者スポーツ研究会（同志社大学）

プログラム内容

☆第1競技（ロープ送り）

各チーム2列縦隊です。スタートの合図でロープを片方の列に縦に送らせます。列の最後尾で向側に渡し正面方向に戻ってきます（Uの字を書くような要領）。ロープの一番最後にバチが結んであるので、ゴールまでロープがまわってきたらゴールの人（列先頭片側）は太鼓まで行き思い切りうちます。早く太鼓を打てたチームが勝ち。

☆第2競技（移動玉入れ）

1チームを向き合う形に並ばせて、その間を背負いかごが移動し幾つ玉が入るか競う。

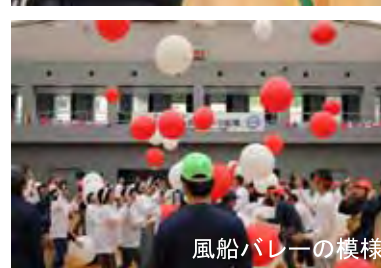
☆第3競技（風船バレー）

人間ネットを挟み風船を打ち合う。自陣の風船が少ない方が勝ち（相手に多く打込む）。

昼食・アトラクション



ロープ送りの模様



風船バレーの模様

☆第4競技（みんなでストレッチ）

休憩時間の後でもう一度体をほぐしましょう。

☆第5競技（じゃんけんダンス）

インストラクターの指示に従いダンスを行います。一定の動きからフィニッシュでじゃんけんぽん。勝った人は負けた人からポイント（洗濯バサミ）をもらいます。ポイントが一番の人はみんなから拍手。

【特徴】

全ての競技が、年齢・障害の度合い等、身体能力の差を気にせず参加できることを目的に考案されたプログラムです。

午前の3競技は、いずれの競技も激しい動きを必要とせず、かつゲーム性を高めたプログラムとして形成されております。

午後からの2競技は障害のある方はもちろんですが、健常者でも運動効果のあるプログラムであり、また、音楽との組み合わせによりレクリエーションとしての要素を取り入れたプログラムです。付添いで参加されているご家族・施設職員の方に覚えていただき、日常の中で利用いただけるように開発されております。



じゃんけんダンスの様様



アダブテッドエアロビクス



障害者フライングディスク

（2）ユニバーサル音楽ワークショップの実施

平成20年度より、明星大学教育学部の星山麻木教授を中心とするユニバーサルワークショップ研究会との共同研究により開発したワークショップは、音や音楽、身体表現等によって子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばし、障害のあるなしに関わらず、心が通じ合うことの楽しさ、相手を知ることによって障害理解のきっかけとすることを目的としたユニバーサルなプログラムです。

プログラムを作成する過程は、教職員を目指す大学生を中心に研究され、自らが指導実践することから、指導者育成についても有効なプログラムとなっています。

平成23年度には、好評を得たプログラムの内容をより充実させ、実施いたします。



実施時期：平成23年10月～平成24年2月の7回

開催地域：福島県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、大阪府、福岡県

対象者：幼稚園・保育園児、小学生の児童

講師：ユニバーサルワークショップ研究会（ワークショップ共同研究団体）

(3) 発達障害児と家族のためのウインターキャンプの実施

発達障害児の療育と、その家族のレスパイト及び交流を目的として、ユニバーサル音楽ワークショップの実績を生かし、そのプログラムを折り込みながら、キャンプを通じた様々なプログラムを実施いたします。

運営は、ボランティアへの参画と意識の向上を目的として、ボランティアによる実行委員会を組織し実施いたします。

主 催：日産労連、NPO 法人ゆうらいふ 21、明星大学「大学カフェ・プロジェクトチーム」、
財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

実施主体：ウインターキャンプ実行委員会

実施時期：平成24年2月の1泊2日

2. 開発、普及及び育成事業

(1) ユニバーサルスポーツプログラム・ワークショップの実施

社会生活の様々な場面で、障害のあるなしに関わらず共に生活をし、共に取り組むことが求められている現在、スポーツにおいてもインクルーシブ教育等、障害の種別を問わず楽しむことのできる、ユニバーサルなプログラムが求められています。

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」での実績を生かし、多くの理解者を得てこの考え方を広めていくために、指導者対象のプログラムづくりのワークショップを実施し、指導者育成に務めてまいります。

実施時期：平成23年10月～平成24年2月の3回

開催地域：福島県、東京都、大阪府

対象者：教育・福祉の専門職員及びその学習をしている学生等

(2) ユニバーサル音楽ワークショップ指導者育成研修会の実施

平成21年度より、障害のあるなしに関わらず共に音楽を通じて楽しむことのできる「ユニバーサル音楽ワークショップ」の手法を、学校教育等の現場で、多くの教職員や指導者に理解いただくための、指導者育成講習を全国4会場にて実施いたしました。

今年度においても同様に、このプログラムの理念を広め、より多くの指導者の育成を目指していくために実施いたします。

実施時期：平成23年10月～平成24年2月の3回

開催地域：福島県、東京都、愛知県

対象者：教育・福祉の専門職員及びその学習をしている学生等

講師：ユニバーサルワークショップ研究会（ワークショップ共同研究団体）

(3) ユニバーサル音楽ワークショップ実施報告書の発行

「ユニバーサル音楽ワークショップ」のプログラム制作の過程や実際のプログラム内容、その過程で生まれた課題などを整理し、障害のあるなしに関わらず、共に音楽を通じて楽しむことのできる「ユニバーサル音楽ワークショップ」の手法を多くの方に知っていただき、取組を促すために、報告書として刊行し配布いたします。

刊行時期：平成24年3月

発行部数：印刷物として500部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

対象者：教育・福祉の専門職員及びその学習をしている学生等

(4) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に務めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年4回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。

発行月：6月、9月、12月、3月

発行数：各1,200部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

内容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

3. 調査研究事業

(1) ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」で実施している、ユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、同様な取組を行っている様々な立場の指導者の相互研究の場として研究会を組織化し、プログラムづくりと指導者交流の場として位置づけます。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座長：藤田 紀昭（同志社大学スポーツ健康科学部教授）

構成員：障害者スポーツ等の指導者、福祉関係者等

開催数：年6回程度

内容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできるスポーツプログラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造

報告書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

(2) ユニバーサル音楽ワークショップ研究会の実施

「ユニバーサル音楽ワークショップ」で生まれた課題や、新たな手法を研究し、ワークショップという手法の有効性を確認しながら、新たなプログラムの枠組みを検討していくために、研究会を組織し、専門家を交えて検討してまいります。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座 長：星山 麻木（明星大学教育学部教授）

構 成 員：教職員、学校教育、社会教育等の指導者、福祉関係者等

開 催 数：年6回程度

内 容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできる音楽ワークショッププログラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造

報 告 書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。